

かすみがうら市議会議員みやじま謙活動報告

つばさ通信

第5号



小・中学校統合を契機に、**教育密度を高めよ!** 特色ある先進教育を!

「少子化対策」で終わらせないために

3月1日から23日まで、かすみがうら市議会の平成28年度第一回定例会が開催され、新年度の予算案のほか、市長など特別職や議員の期末手当値上げの議案などが提出されました。私は一般質問で、4月から開校となる霞ヶ浦地区の統合小学校について、少子化による後ろ向き統合ではなく、かすみがうら市独自の先進教育を施すチャンスにすべきと提言をしました。

統合小いよいよ開校

この4月から、いよいよ霞ヶ浦地区の統合小学校2校が開校となります。

霞ヶ浦地区ではすでに中学校が統合を終え、2年が経過しています。統合1年目はやはり、生徒はもちろん先生方にも戸惑いがあったようですが、2年目はすっかり落ち着きを取り戻し、生徒たちは元気に

学校生活に励んでいるようです。

学校の統合には、複式学級などの少な過ぎるクラス編成の是正によって、多彩な教育が施せるようになることや、子どもたちの人間関係が多様化すること、学校経営の効率化が図れること、などのメリットがある反面、児童数に対して先生の人数が全体として減ることから、教育密度の低下が懸念されるなどのデメリットもあります。つまりは、小さ過ぎるデメリットを統合で解消しつつ、いかにより高い教育環境を提供できるか、それが学校統合の成功のカギを握っているのです。

教員加配で細やかな教育を

私は一般質問で大山隆雄教育長に、新しい

統合小学校で、どんなメリットが見込めるかを質問したところ、「運動会や音楽発表会など各種行事の充実を図ったり、より大きな集団での生活を通しているいろいろな体験をしていただいたりして一人ひとりの能力を高めていただきたい」との答えでした。

確かにこれらは学校統合のメリットとして一般的に期待される効果でもあり、私もぜひそうあってほしいと思います。

しかし、小さいとは言え、地域と密着していた愛着のある地元の小学校を閉校して統合したわけですから、さらに積極的なメリットを生み出したいところ

です。そこで私は、教職員の加配について、提言を行いました。

学校統合の大きな理由は、人数が少な過ぎることによって、教育カリキュラムが限定的

となることや、多様な人間関係を結びづらいうというデメリットの解消が上げられます。

一方で、小さな学校は、先生の目が子供一人ひとりに行き届きやすく、よりきめ細やかな教育ができるという大きなメリットがあります。小さな学校のほうが子供の問題行動が少ないという傾向もあるようです。

そこで私は、このようにな少な過ぎるデメリットを統合で解消すると同時に、教職員の人数を増やして、教育密度を高める施策を打ち出すべきだと提言しました。現在の小学校は1クラス40人が基本なのですが、かすみがうら市では独自予算を組んで1クラス30人で編成し、他市よりも密度の濃い教育を施してはどうかという案です。

予算にも大いに関連することから、この質問は市長にもしました。が、残念ながら「さまざま角度から研究する」との答弁に留まりました。

この4月から学校教育法が改正され、新しく義務教育学校というカテゴリーが加わりました。これがいわゆる小中一貫校のことです。

どうなる？小中一貫教育

小中一貫教育は、小学校6年、中学校3年という区切りを取り払い、9年間を見据えた柔軟な教育を施そうというものです。つくば市では平成24年から全市でスタートし、土浦市では平成30年完全実施を目指して準備を進めています。しかしかすみがうら市では、まだ方針すら定められておらず、教育行政の今後の見通しが立っていません。

この小中一貫教育について大山教育長は、「他市の動向なども見ながら慎重に検討すべき」と答弁し、推進には消極的な見解を示しました。

子育てと教育環境の整備は、人口減対策の要であり、急務です。様子見をしている段階ではないと思うのです。

千代田と出島は鳥の両翼
心合わせて羽ばたこう!



『つばさ通信』の紙名は、かすみがうら市が鳥の翼の形をしていることに由来しています。千代田と出島の両地域が心ひとつに、全市一丸となって大空を羽ばたいてこそ、かすみがうら市の明るい未来が切り拓かれていくと確信しています。

